

社会科

歴史を考えよう—教科通信を使った歴史の授業（その1）

山田 孝

【抄録】授業実践における、教科通信の役割についての報告である。特に、中学1年の歴史の授業を中心にして、教科通信「冒険者たち」を使った学習について考えていきたい。原始時代の学習を通じて、生徒のイメージがどう変化したか、既成概念を崩し、考える授業を教科通信を使って実践した内容を論述した。

【キーワード】教科書 教科通信 「冒険者たち」 考える授業 原始時代

はじめに

生徒に配布する資料の一つとして、教科通信を作るようになって7年ぐらいになる。

最初は、荒れた中学校で授業の成立さえ困難であったときに、少しでも授業に集中する生徒を増やそうと作り始めた。今では、たんなる資料ではなく、歴史をよく深く考えさせるために、教科通信をつくるようになった。教科通信が、私の授業のなかでどんな役割を果たしてきたのか、特に中学校での教科通信「冒険者たち」を使った授業についてまとめていきたい。ちょ

うど私が本校にきて、中学1年、2年と連続して歴史の授業を担当し終え、ひと区切についたところでもある。それから、教科通信は今も名前を変え、現在の中学1年生にも発行を続けているし、今後とも発行し続けていく予定である。今回は、これまでの中間報告としてまとめることにする。

1. 教科通信の目的

教科通信の私の授業のなかでの位置は、教科書だけでは理解しにくい内容や、より深い理解に導くため、状況に応じて発行することになっている。そして当初(89

中1教科通信 1989.12.15 第1号

冒険者たち

山田の歴史通信

山田の社会が始まります!

いよいよ社会の物語が始まります。先は、社会の中の歴史的分野を教えることに分ります。

歴史的分野は、人間どのように生活してきたのか、どのように発達してきたのか勉強することです。そして、いかにそのことを覚えることが歴史の勉強にはあります。過去の歴史を正しく勉強して、これからの歴史を創造していくのです。よりよい歴史をつくるために一緒に勉強しましょう。



(教科書4～5ページ)

ソウコーの国が、一か月の間、いかに勉強しよう

♡山田のプロフィール♡

名前 山田 孝 出身地 石巻市

経歴 1962年 生まれ
1982年 石巻市立中学校卒業
福高中 桜丘中. ほろ中
前中 津野中. 滝中
1985年 石巻第一高校
1989年 石巻工業大学へ

特技 自動車免許、自動二輪の免許
中絶済
妻1人あり、石巻市村田在住。

「冒険者たち」とは、カバンと道具の仲間がイワタのノロイと通話していく物語である。

日授業を始める前に、原始時代のことでも考えてみましょう。(教科書11～12ページ)

ネアンデルタール人のナンディ君

現代人は原始時代の人より進歩してはいるでしょうが、原始人は野蛮人だったのでしょうか、考えてみましょう。

イラクのシャニダール洞窟で発見されたナンディ君は、生まれつき身体に障害がありました。死んだ時の年齢は、ネアンデルタール人にしては高齢の40歳くらい(現代の60歳くらい)と推定されています。ナンディ君は右腕が不自由で、その上、左目も見えなかったようです。ナンディ君の生まれた所は、健康な人間と暮らすのが難しい、荒々しい環境でした。体の不自由なナンディ君が生活するのは、たいへんな困難にぶつかるか、たぶん、しかし、彼の家族は決して泣きやがりませんでした。

ナンディ君の前世は異常に辛苦でした。これは前巻石巻版のかわりにして、前巻にたどるのを助けていきたいと思います。

生きていくために強い力が求められていたであろう時代に、ネアンデルタール人は弱いのに対して思いやりをもっていました。

♡花を愛したネアンデルタール人♡

ネアンデルタール人の遺体のまわりから、花柄が発見されています。このニモックネアンデルタール人は、花と花に埋葬されていたことがわかっています。

1989. 4. 22 第2号

冒険者たち

山田の歴史だよ

人間は本当にすごいですね。

右の国は、アウストラロピテクス君です。全身にもがはみているし、顔と頬によく似ていますが、ちゃんとは本足でたて歩いていました。その上、道具も持っていました。

▶人間の特殊は何でしたか？

もうすぐ、道具を製作することです。道具を使うことのさきと動物は、こういふ。しかし、道具を作るのがさきなのは人間だけです。だから、道具を作りこむ人間は人間になつたわけですね。本当に人間はすごいですね。

▶道具を使う動物たち

キツキフィンク

南アメリカのガラパゴス諸島にすんでいます。たまふよじの森を細い棒を使って穴の中の虫をほじり出して食べます。

おなじみのラッコ

腹の上で貝を割って食べます。



打製石器の切れ味

現代の石器には、打製石器と、磨製石器とがあります。打製石器は、石を叩いてつくりだすので、切れ味がよくありません。磨製石器は、石を磨いてつくりだすので、切れ味がよくありません。打製石器は、石を叩いてつくりだすので、切れ味がよくありません。磨製石器は、石を磨いてつくりだすので、切れ味がよくありません。



山田の歴史だよ

中学校生活になれましたか。

君たちが、中学生になつて2週間がすぎようとしています。もうそろそろ中学校生活になれたでしょうか。

山田の歴史もそろそろ教回せたいと思つていますが、どうですか。感想を聞かせて下さい。それから、君たちを冒険者にしよう。君たちにもこの「冒険者たち」の記事を書いてみようと思つて、います。

①書いて下さい。

②サルがヒトに進化するにあつて、ヒトはどんなに努力したと思つてか。(山田は、人間が努力して進化していった機に感動しています)

③山田の授業についてこの感想又は、歴史についての疑問・質問があれば書いて下さい。

年度)は、私の担当している教科全てで発行することにした。その当時発行した教科通信は、中学1年歴史—「冒険者たち」、高校2年世界史—「波瀾万丈」、高校2年選択日本史—「晴天のへきれき」、高校3年選択日本史—「コモンセンス」の四種類であった。これらの教科通信は、さすがに授業毎に発行するのは、最初から考えておらず、授業2時間に一回の割合で発行することをめざした。しかし、結果は比較的長く続いたが、中学1年の「冒険者たち」と高校2年世界史の「波瀾万丈」であった。これら二つは、自分でも思い入れがあり、また、生徒の期待も大きく次年度(90年度)も継続された。

教科通信を用いた授業は、生徒の興味関心を惹き、授業への集中度が高かったように考えられる。それだけでも教科通信を発行する意義は大きいのだが、教科通信を作成して、授業で活用するねらいを確認してみると、①教科書の記述だけでは、生徒の興味関心・深求心を高めるには不足しており、それを補うために。②教科書の内容だけでは歴史を理解するうえで、充分でない場合。③現実の問題と即応して、歴史をとらえるために。④教科通信の紙上を通じて、教師と生徒、生徒間の交流ができるように。などの四点である。また、本校の教育目的である、「平和と国際理解の教育」を実際に授業の中に取り入れるにもこの教科通信が大

いに役立っている。それは、教科書の内容だけでは平和や国際理解の問題が触れられないからである。それでは、「冒険者たち」を通じての授業の展開を考えてみたい。

2. 原始時代を考える—歴史の導入として

中1教科通信「冒険者たち」のはじまり

ここ数年、歴史の授業は「ネアンデルタール人のナンディ君」の話(資料1「冒険者たち」第1号)から始めることにしている。中学では、1年と2年の2年間にわたって歴史を学習することになるのだが、その一番初めに、歴史を学ぶ意義を生徒と共に考えるのに、この話が一番適しているとは私は考えている。

事実を事実としてとらえるには、教科書の内容は便利だが、そこから人々の苦勞であるとか努力を理解しそれを予測させるには、残念ながら、私の期待する内容を満たしてはいない。したがって必然的に教科通信を作ることになる。

教科書(日本書籍「中学社会歴史的分野」)の始まりは、原始時代の人々である。いわゆる、人間の祖先は何かということから、類人猿から新人までの進化を学んでいくわけである。しかし、それだけではどうしても納得のいかない問題がある。

それは、人類の発達の過程を一面的にとらえてしま

うのではないかということである。『人類は「遅れた段階から」、現代の「進んだ段階」に発達してきた。原始時代の人々は「賢くなく、未開である」、現代人の方がはるかに賢い。』というように覚えこまされてしまうのではないかと危惧するのである。生徒は、現代人が一番賢く、原始時代は野蛮で、未開な時代だと考えてしまうのではないか。しかし、実際はよく考えてみれば、高度に文化が進んだ現代において、人類を何度も絶滅させることができる量の核兵器を保有し、常に生存の危機に怯えることが果たして「賢い」人類のすることであるか、わかるはずである。この問題を考えることによって、人類とは、文明とは、発達とは何かがより深く理解できるのではないだろうか。

(1)具体的な授業の展開

とにかく一番最初の授業は、生徒も教師も手探りである。教科通信を使った自己紹介をし、歴史の学習方法を話し、本題の「ナンディー君」の話に移っていくのである。ナンディー君は、数万年前に生まれ、体が生まれながらにして不自由であった。にもかかわらず、仲間や家族と協力してたくましく生きてきたのである。この文を読んだ後で、ナンディー君について意見や感想を出し合った。特に、現代の福祉制度の現状も考えて話し合うと、「ネアンデルタール人の方が、どうも弱い仲間を助け合って支えており、現代人の方が冷たいのではないか。」という意見がだされ、原始時代の人々がけっして現代人よりも劣っていたわけではないことが理解できた。次の授業では、道具の製作について考え、人類と動物との違いを学習することになる。

(2)道具を作るのは人間だけ

前回の授業で、感覚的などころで、原始時代の人類が現代人と比べてもけっして劣っていないということがわかってきた。次は、具体的に道具というものを取り上げて、人類が叡知を結集して生きてきたことに思いを巡らせるのである。(資料2「冒険者たち」第2号)

こうして原始時代の人類について、教科通信「冒険者たち」を使って学習してきたのだが、生徒たちの感想はどうであろうか。ちょうど授業開始から一ヵ月後に実施したアンケートをみると。

(3)生徒の感想文より

- A—昔の人々は、とても頭が良かったと思う。私は前は、昔の人はバカだった……と考えていたのですが、小学校6年生で歴史を習い、そうでないかもしれないと思い始めたのです。
- B—私たちの祖先は、すごいなあと思っています。すばらしい努力だなあと思っています。
- C—サルから人間への進化はとてもすばらしい。
- D—昔の人は、土器などの作り方がすごくうまい。よく材料とか縄とかで工夫したところがいい。

E—昔の人間はとてもえらい。自分とくらべるとなさけない。

F—サルが人間に進化するのが、ぼくはすごいな—と思った。

G—人間が努力して、進化したことがすごい—と思った等の、わたしがねらった意図に対して、大体の生徒が理解を示したようであり、人類を肯定的にとらえすばらしいものだと思うようになった。また、教科通信「冒険者たち」の感想については、

H—「冒険者たち」のプリントが詳しく書いてあるのでよくわかる。

I—とてもわかりやすく書いてあるので、よく物事を覚えられる。

等と一応好評であった。こうした生徒の声は、教科通信にも載せて、お互いの考えが交流できるようにも心がけた。

3. 「冒険者たちの」の発展

原始時代の学習から、古代社会・日本の旧石器時代と、授業が進展している。そのつど、テーマを決めて教科通信を発行していった。こちらの意図どおりに展開した授業もあったし、そうはいかなかった授業もあった。しかし、それでも教科通信が大きな役割を果たしたことは間違いないだろう。いろいろと試行錯誤したが、1年間に発行し続けた教科通信「冒険者たち」のタイトルは以下のとおりである。

- 1, ネアンデルタール人のナンディ君
- 2, 人間は本当にすごいですね!
—道具を製作する人類—
- 3, 日本人はいつごろから日本にいたのか?
—岩宿の発見 前編—
- 4, 日本にも旧石器時代があった
—岩宿の発見 後編—
- 5, 縄文人にも虫歯があった
—縄文人の生活を考えよう—
- 6, 稲作の「なぞ」を迫え!
—森本六爾氏の探求—
- 7, 登呂の村を発掘しよう
- 8, 原始時代のまとめ
- 9, 支配する者と支配される者
- 10, 山田が教師をめざしたとき
—教育実習生をむかえて—
- 11, キリスト教を信じる者は罰する
- 12, 竜骨のなぞを迫え!
- 13, 万里の長城と孟姜女
—万里の長城物語—
- 14, 夏休も特集 今年44回目の夏でした

- 15, 古墳を復元しよう
—五色塚古墳—
- 16, 新しい技術は朝鮮から
- 17, 日出ずる国の王子
—厩戸王子物語—
- 18, 戸籍がないことは大変なことだ
—大化の改新と戸籍—
- 19, 吉野の鮎は強い鮎
- 20, 大仏をつくろう
- 21, ふりさけ見れば春日なる
—仲磨呂と鑑真—
- 22, 十一才でお嫁入り
—藤原道長の時代—
- 23, 水鳥の羽音 —奥州のつわもの—

(第14号)



- 24, サルはなぜカエルを殺し、ウサギに追われたか?
- 25, 名字 (苗字) の歴史
—平安時代から鎌倉時代にかけて—
- 26, 何としてもてがらを
—竹崎季長と元寇—
- 27, 立ち上がる民衆

4. 「冒険者たち」のその後と今後の反省点

「冒険者たち」は、この後も生き延び、中学2年では、「冒険者たち2」として、細々と発行続けた。最初の1年間の勢いはなくなり、青息吐息で発行することになった。これは、多少言い訳がましいが、本校での2年目は高校3年生の担任となり、担任業務に追われたこと、高校3年世界通信「続はらんばんじょう」の発行に力を入れたことによる。したがって、継続的に教材としての活用としては不十分であった。

さらに、教科通信の発展版としての生徒の手による歴史通信というものも構想にあったが、そこまで手が回らなかった。全体として、教師の側からの働きかけが中心で、生徒自らが学習し発表することができなかったのが反省点である。

また、内容的には、教師である私の興味関心の強い内容に限定されたという問題もある。

現在、中学1年の歴史では、これまでの教科通信の内容を受け継ぎ、さらに内容を豊かにして発行を続けている。この内容については、今後また報告していく予定である。

補 足

教科通信は、できるだけ楽しく、わかりやすく見易いものにする必要がある。また、絵や図なども多いほうが読みやすい。それから、私の場合は、できるだけ物語的な要素を多くして、「読む」ことを重視した。以上の観点から、教科通信に載せる内容もそれなりに工夫したつもりである。特に、参考にした書物をここで紹介しておきたい。

(第24号)



教科通信についての実践的な活用方法については、杉山雅氏の「私語とたたかうシナリオ授業」(高文研)の影響が大きい。杉山氏からは、直接お話を伺ったり、授業実践のビデオやプリント資料を送っていただいて参考にさせていただいた。

原始時代の技術論については、岩城正夫氏の「原始技術史入門」(新生出版)などが詳しい。

全体的な歴史の物語については、「世界と日本の歴史」(大月書店)を大いに参考にさせてもらった。この他にも、その都度参考にした史料も多い。

最後に、「学習漫画」も教科通信の中に資料として利用することがある。これは、文字だけでは理解しがたい内容を、イメージ豊かにさせてくれるという利点がある。特に活用しているのが、小学館の「少年少女日本の歴史」で、他の学習漫画に比べて背景などが丁寧に描かれている。内容的には、通史であり話が散漫になりがちである。その点、大月書店の「まんが日本の歴史」は、テーマ毎に話が別れているので、教科通信のテーマによっては使いやすい内容が多くある。

世界の歴史に関しては、二つの出版社があるが、どれも絵の質や内容に物足りなさがありあまり利用していない。